

公共交通実態調査アンケート及び市交通サービス利用者アンケート調査結果

1 公共交通実態調査アンケート結果

市では、令和8年度からとなる次期大船渡市地域公共交通計画策定に向け、市民アンケートを実施した。

アンケートの実施にあたり、令和6年度の地域医療懇話会で、通院に係る移動手段が課題として挙げられたことから、買い物や通院の行先や頻度等についての設問を設定し調査した。

【調査結果】

(公共交通の利用目的 複数回答)

- ・ 買い物が30.3%、次いで通院が29.6%。

(日常(通院、買い物等)の移動手段 複数回答)

- ・ 家族・友人等の車が50.8%、次いでバス・三陸鉄道等の公共交通が33.9%。

(通院している病院等のエリア 複数回答)

- ・ 大船渡地区Aが26.8%、猪川地区Aが16.8%、盛地区Aが10.8%等。

(通院頻度)

- ・ 月に1回程度が218人、3カ月に1回程度が104人。

2 市交通サービス利用者アンケート調査結果(令和6年度調査)

市が実施している各種交通サービスの利用実態、評価・意見の把握を目的に、サービスの利用者にはアンケート調査を実施した。

【調査結果】

(利用目的 複数回答)

- ・ いずれのサービスにおいても、通院での利用が最も多く、次いで買物となっている。回答全体では通院が294人(45.7%)、買物が189人(29.3%)。

(目的地 複数回答)

- ・ タクシーチケット配布事業では、大船渡病院が21.6%、個人病院が29.1%、デマンド交通では、大船渡病院が15.6%、患者輸送車利用者では、38.2%が診療所。

(通院の頻度 患者輸送車を除く)

- ・ 月2回が24.5%と最も多く、次いで月1回が20.3%。

(患者輸送車の必要性 回答数22)

- ・ 患者輸送車がないと困るが68.2%、患者輸送車があった方が良かったが22.7%。
- ・ 患者輸送車が有料となった場合でも利用するが72.7%、利用しないが4.5%。

3 調査結果の考察

- ・公共交通実態調査アンケート結果では、利用目的を買物と通院とする割合が同等である。
 - ・市交通サービス利用者アンケート調査結果（回答の大多数が高齢者）では、利用目的を通院とする割合が高くなっている。
 - ・県立大船渡病院が所在する地区が通院エリアとの回答が多いことから、当市の医療において同病院への依存度が高いことが窺える。
 - ・通院エリアとして回答が多かった地区は、市内で唯一の診療科を有するクリニック等が所在する地区や、交通の便が良い地区となっている。
- ➡ 市が実施している公共交通施策が、医療へのアクセス支援策の側面を持っており、高齢者にとってはその傾向がより顕著である。
- ➡ 公共交通実態調査アンケート結果では、日常の移動手段が家族・友人等の車との回答が半数を超えており、この中に、公共交通による通院が困難な者が一定数以上いると思われる。